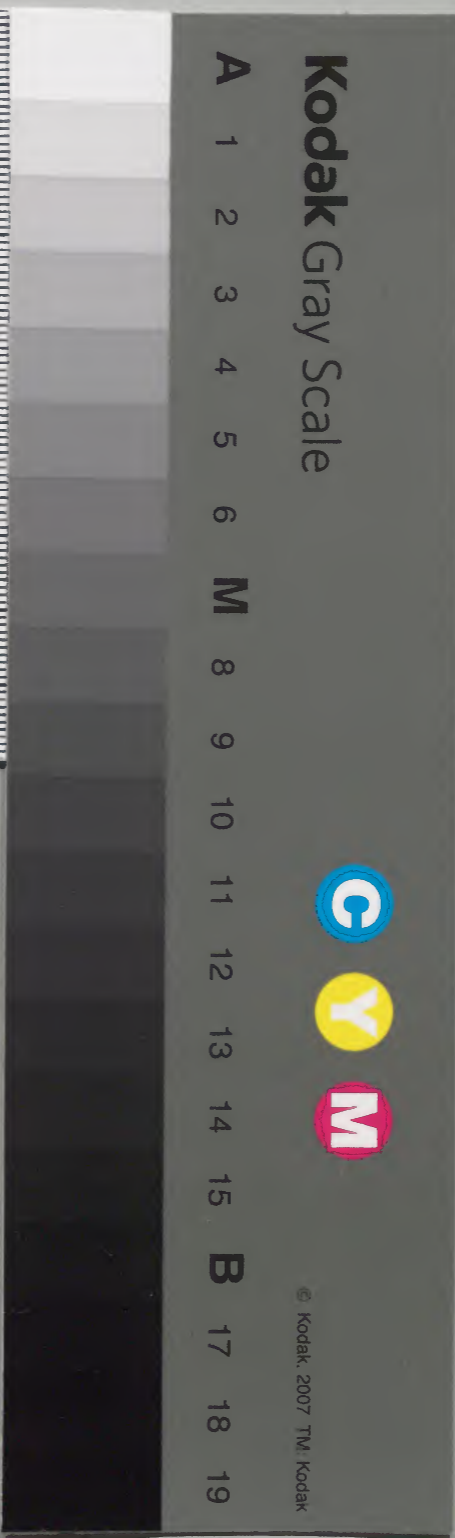


寛永諸家譜

平氏十九冊之内
繁系盛流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (68)		
函號	特	76	1





岩城

城玉虫

小栗

寛永祐家系譜傳

平氏

磐盛流

岩城

良守

祐家系譜傳

後了 岩城大掾國香とありし

淺草文庫

貞盛 まこと

法守府將軍 りよぶのふのりくえん

後白位下 ごあか

繁盛 まげり

澁奥指守 しりののぶんのさき

指守

安忠 やすとむ

則道 のりち

岩城次郎 いんぎ

則道代 のりちのしろ 之 の 岩城氏 いんぎのうぢ と 稱号 なづかひ
也 なり

忠清 たか

次郎

清隆 しやうりゆう

次郎

師隆 しりゆう

左郎

隆行 りゆうぎやう

次郎

澄平たうひ

次郎

澄守たうしゅ

次郎

義徳ぎとく

次郎

照徳てうとく

次郎

照義てうぎ

次郎

朝義あそぎ

次郎

法名重祐ほうなむねゆき

孝朝きようてう

次郎

法名親堂ほうなむねだう

清胤きよむね

次郎

法名徹山ほうなてつさん

隆忠りゅうちゆう

下総守しもつごのりし

法名實山ほうなまじつさん

親隆ちかたか

下総守

法名虎山ほうなまこさん

常隆じょうりゅう

下総守

法名可山ほうなまかさん

申隆しんりゅう

氏部右将うじぶのたみ

法名智山ほうなまちさん

重隆じゅうりゅう

左京右史さきやうのたみ

法名月山ほうなまつきさん

親隆ちかたか

左京右史

伊達胤宗が嫡男重隆が外孫より

一より一より一跡とほぐ

文禄三年七月十日一病死

法名光山

常澄子

右系左史

小田原陣一發向とゆ陣以候

天正十八年七月廿二日早薨

とほぐ病死二十四歳 法名鐘山

貞澄子

忠次郎

實ハ作竹常澄女義重が三男常澄

親親より一より一跡とほぐ一

台蓮院殿の幕下に属一大阪西陣

とほぐ

元和六年十月十九日江列

とひく病死 歳二十八 法名雲山

宣隆

他馬守

貞隆が嫡男修理太夫八作竹義宣
の跡とけいぐはゆり身宣隆兄
貞隆が跡と継

寛永十一年十二月廿九日 後五位下

叙と

重隆

左次郎

家の紋





城玉虫

桓武天皇九代

● 國香

繁盛

出羽城分

維茂

繁成

出羽軍

出羽城分

貞成 まこと

城太郎 しろの

永基

二郎

助國 すけくに

九郎

助永 すけなが

越後守 えちごのり

長茂 ながしげ

兄助永のり元玄もとげんののり後越後守ごえちごのり中務なかつむ

資盛 すけもり

左郎

計とく間ま数かず代しろ中ちゆう終しゆう

貞茂

玉虫次郎左衛門 生國越後
城氏の庶流なり城氏八世宗領一人
是と稱どこのゆへに玉虫と号と
ほ式部少将中河守と
長尾為宗とよび京虎とけふ
信列とよひとと八十餘あり
死と 法名道香

京茂

次郎左衛門 和泉守 喜房 生國
越後
長尾京虎とけふ之國扇とあづけ
らる今とよひとと取持とこのとき
京茂と二十
玉虫次郎とよひととと
城氏の宗領と絶つれ

より元龜三年武田晴信京茂と
志々城氏と継ぐめ自筆の書と
授今よとひく二色あり
甲列没落此以後天正十二年
大指現越後國古志郡中領よりよ
より京茂小是とたゆふ湯朱平
るびびり書今よりとひく
所持と
長久多内陣よ

大指現より志々城より
同十二年駿府よとひく死と
歳六十六 法名道逸

繁茂

玉虫次郎大指 若馬守 生國越後
父貞茂と同越後とより武田
晴信及勝頼二代より
天正十二年より兄乃京茂と同

大指現より此之きくまら

同年長久手河陣小志さく

くくまら

長久手河原河陣より信長

同年 約命よりくまら

信長院殿より此之きくまら

同十八年

大指現の終よりくまら 忠輝より

此ふ

元和元年大坂河陣より忠輝より

くまら 志さくまら のら忠輝より

關國せらりられよりくまら

同八年小

信長院殿の終成より忠長より

此ふ

寛永元年武列信長よりくまら

死より七十九 法名道正

俊茂

玉忠次郎右衛門 生國武苑

始は父とおるしく右輝をよほ之

え和えし大坂陣より忠輝を

よほさる

同八年

台徳院殿の侍とあり父と同しく

忠をよつ

同十六年より

將軍家よほさる

昌茂

城織部依 和泉守 生國同あり

武田晴信勝頼よりほす

天正十二年父系茂とおるしく

古来和とおるしく

大権現とおるしく

長久寺此所陣より侍を

享和五年園原所陣より侍を

同十九日享和元年大坂両度

所陣小

大指現より寺さぐひさくまら

寛永三年信列よりとひく死

少一平六法名宗仲

重茂

玉虫助太夫 生國甲斐

享和長十

台徳院殿より湯一キさくまら

大坂両度の所陣より侍を

享和五年より

將軍家よりつとくまら

宗茂

八尾所 生國と結

元和三年より

將軍家より侍之しやくまら

しやくまら
清茂

玉出助十郎 生國武苑しやくまら

寛永十三年より

將軍家より侍之しやくまら

信茂

がのやうのせう
城藏初依

生國甲斐

天文六年開原清陣かんのしやくまら

大指現より志しやくまらさしやくまらぐしやくまらひしやくまらなりしやくまら・志しやくまら後しやくまら

台迹院殿より侍之しやくまら

大坂お度の清陣しやくまらより侍之

寛永九年より

將軍家より侍之しやくまら

同十六年武列しやくまらより侍之しやくまら・病死

しやくまら 六十二 法名宗恕しやくまら

初茂とら

城守在茂 生國武苑

寛永四年より

台徳院殿より此之きまらまら

同九年より

將軍家より此之きまらまら

時茂とら

玉出友之助 生國同家

寛永四年より

將軍家より此之きまらまら

高茂とら

玉出友之助 生國同家

寛永十三年より

將軍家より此之きまらまら

某

万石 まんきり

生園回お

家の紋 いえもん
花菱 はなびし

維幹 いけん

為幹 いけん

● 繁盛 しげき
平将軍 へいしやうぐん

小栗 こり
常陸 ひらぬ 國 くに 守 まも り り 氏 うぢ

重幹しげ

重家しげ

重能しげ

平治合戦の時鶴坂よとひく討死ついで

重成しげ

源平合戦のゆきさ壇乃湯よとひく討死ついで

重廣ひろ

重朝しげ

重信のぶ

南あつと号しと

頼重より

重宗しげ

右衛門尉

重政しげ

遠江守とほへのかみ

重貞しげ

重顯しげ

河澄又次郎かいはるまたじらう

重秀しげ

厚料小三郎あつりょうせうざぶらう

重家しげ

横濱辰王と号よこはまの辰王とあざな

重光しげ

重行しげ

大開文珠丸おほひらきぶんじゅまる

重勝しげ

重清しげきよ

金尾屋彦五丸かねおのやひこ

重益しげえき

詮重しげしげ

幸江守

氏重うぢしげ

基重もとしげ

満重みつしげ

助重すけしげ

常隆外しげのり

常隆外

重弘しげひろ

弾正丸だんしょうのり

重久しげひさ

法名寺河しげのり

真重ましげ

三郎左衛門尉

重昌すゑあき

雅系助みやこけいすけ

冬河田平田合戦ふゆがわのへらひらあひざんよりいへり付死ついでに

憲重のりしげ

付死

某

竹子代丸たけこしろ

正重ただしげ

某

お家泊記おけしほり并澄宮内ならびにすみみやうち以上

正次ただしげ

十在衆じゅうざいしゆ

生國冬河

台座院殿よりけふまうり大津番と

けとむ

寛永九子より死とやう一甲八

法名淨林

正盛

権左衛門

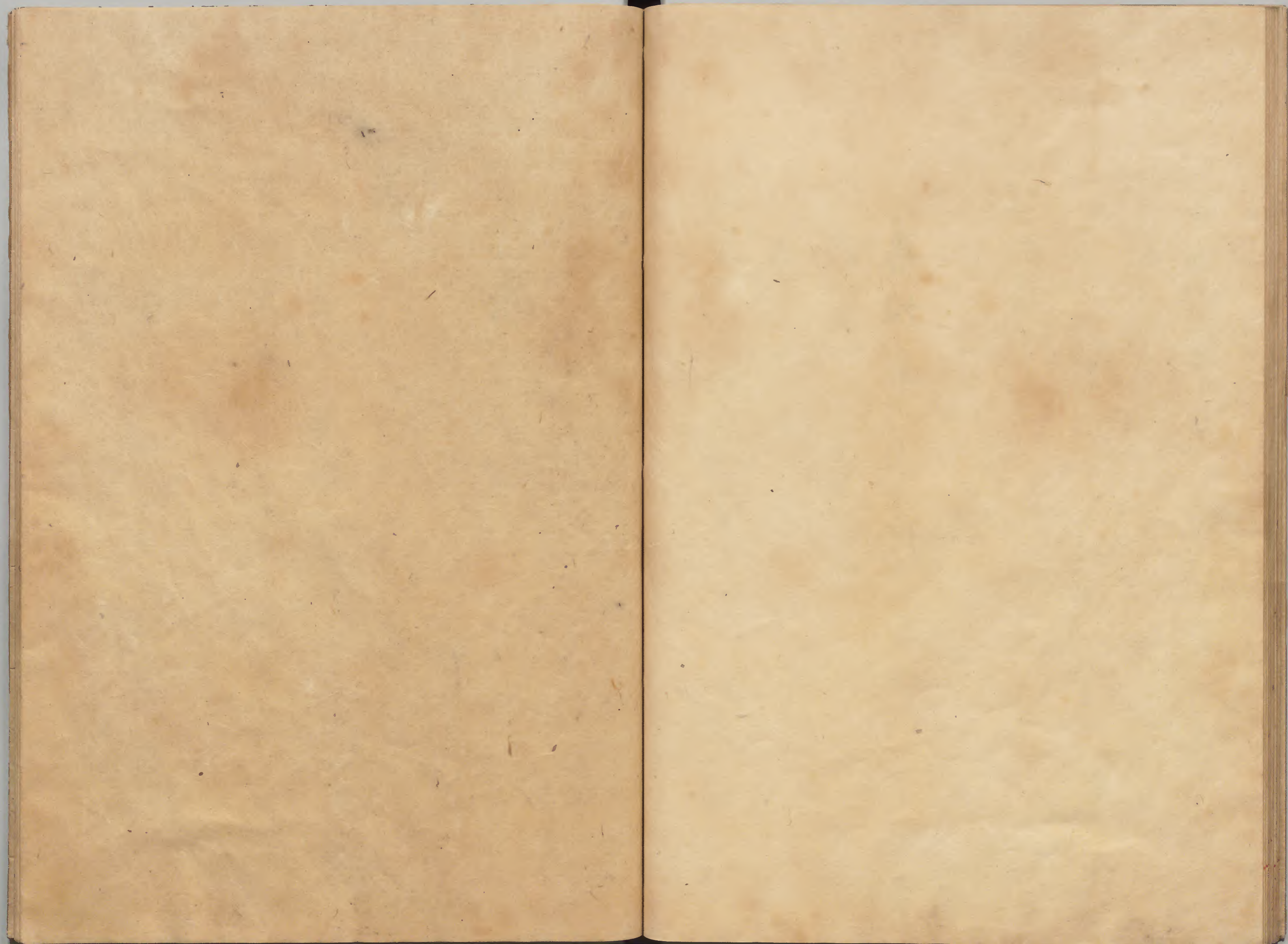
生國武苑

寛永十一年より

將軍家よりけふまうり大津番

とけとむ

幕^{まゝ}紋^{のん}角^くの内より月下^{しげ}立^り波^{なみ}



小栗

● 正勝

左大臣

生國冬河

之^レ年^ニ正勝十六歳^ニ冬^ノ別

よ^レひ

大指現^レ一^ノ片^ノき^レま^レり^ノ鼻^ノ治

の^レ好

名徳院殿より侍ふまつ
寛永三年七十歳少く病死

正信

右七郎 生國同前

名徳院殿より侍ふまつ
寛永元之二十三歳少く病死

正重

右七郎 生國茂茂

寛永七年十六歳少く

名徳院殿より侍ふまつ

薨逝の候

將軍家より侍ふまつ

正利

右七郎 生國茂茂江戸

寛永二年

右徳院殿より湯一りまうり
將軍家より片之なり

家の紋波よ平地一よ八立波

小栗

● 久次 いさ

右左衛門

生國次 い

永祿九 えい

大指規 おほさしり

元和二年 げんわ

台座院殿 たいざえん

寛永四年 七十九少く 福元

政次

長右衛門 生國彦江

寛永五年より

大指現より此之末より

同十一月

台座院殿より此之末より

寛永九年より

將軍家より此之末より

久後

右左衛門 生國彦江

元和七年

台座院殿より此之末より

寛永九年より

將軍家より此之末より

久成きうせい

またあつ 生國なまくに同あ

寛永三年かんえい三年より

將軍家よりは之これよりより

政後せいご

またあつ 生國なまくに武苑

寛永七年かんえい七年

台地院殿たいちいんよりは之これよりより

同九年どうくわんねんより

將軍家しやうぐんかよりは之これよりより

家の紋いへのかづな立波たてなみ



小栗

久勝

いさろ

九郎右衛門 生國冬河

永祿十一年

大権現より此之たより

之和二月より

台漣院殿より了り

寛永六年より病死歳七十七

久玄くろ

平吉 生國を以

交長三年

大指現よけくさくまら

同六年より

台徳院殿よつふまら

寛永九年より

將軍家よりけくさくまら

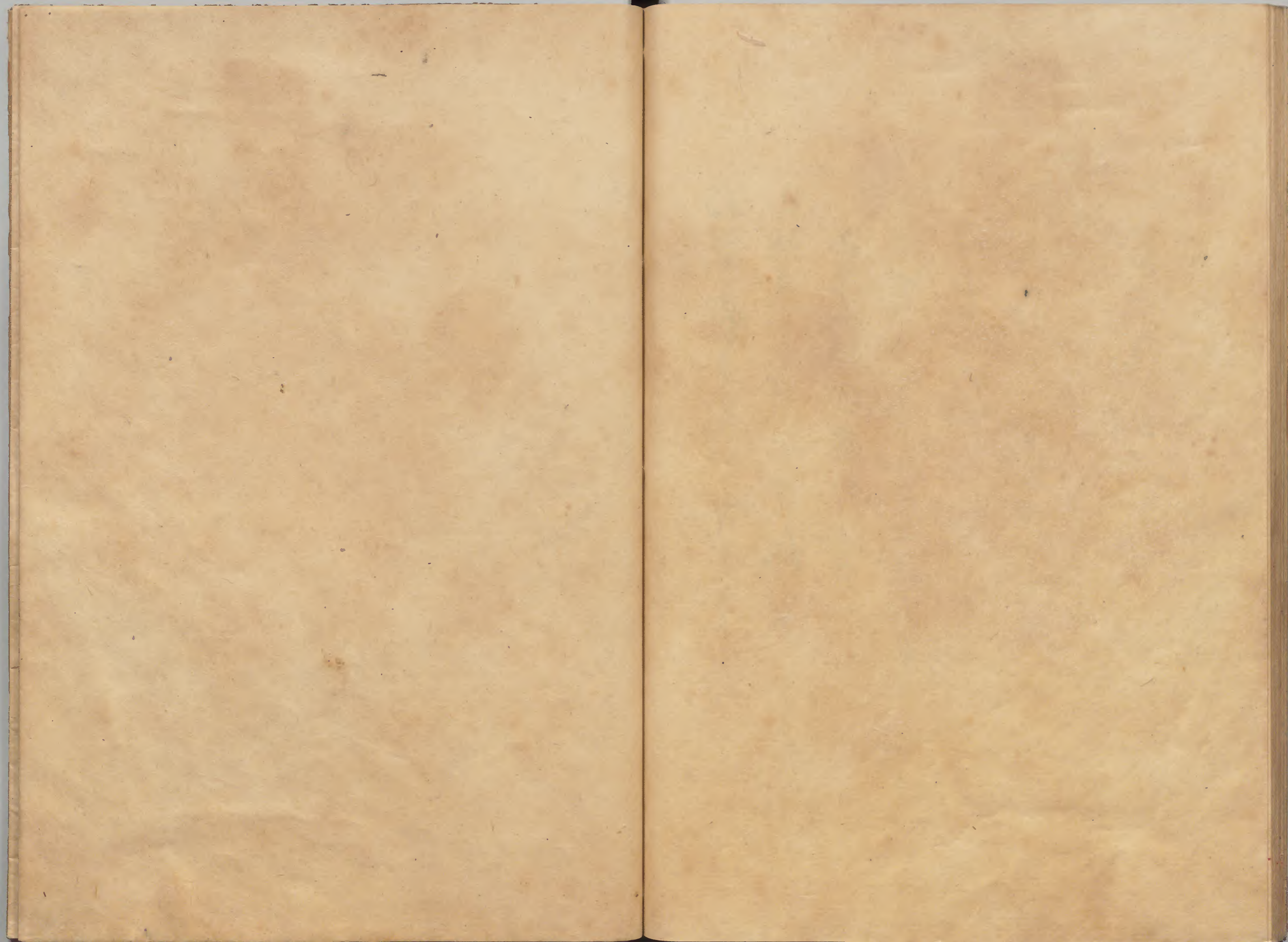
同年五月十日 約命とくさくまら

小十人組の番頭とるり

同十二月布衣と着らるるよとゆり

さけ

家の紋 立波



小栗

●
元久もとひさ

依原次郎左衛門

生國冬河

元次もとつぐ

太即右衛門

生國冬河

え重いしげ

右場つ八

生國河あ

らどめて小栗氏よあつてい

え和口ひ十一月亦りあり

將軍家よりは之をあり

家の紋いん丸まるの内うちよ二ふた列いし

